

2020年11月

今年の秋はちょっぴり寒いですね。10月の上旬は最高気温25 を超えている日もありましたが、中旬以降は最高気温20 超えるかどうか、最低気温も10 を下回る日がでてきましたね。みなさんも体調にはくれぐれもお気を付けくださいね。

今回ご紹介する動物は漢字で書くと「栗鼠」です。栗や木の実を好む動物……「りす」です！見た目もかわいらしい動物ですよ。いまからご紹介する本は、カバー（表紙）からして、癒されます！

その本は、『りすぼん』松原卓二写真・文 集英社 2011 です。『りすぼん』とタイトルもかわいらしいのですが、本の写真もとてもかわいいです。登場するのは、富士山麓に住む著者のお家周辺に現れるリスたちです。斎藤さん、ミミカケ君、青年、めめ子、首太君、たつ子、いっぽん君、期間限定でやってきた子、子リスなど、色んなリスが出てきます。ちなみに、本のカバー（表紙）には、いっぽん君の“いいポーズ”が使われていて、ウィキペディアの「ニホンリス」の写真は斎藤さんが採用されています。

かわいくて思わず笑ってしまった私のお気に入りの子は、いっぽん君です。その名の通り、左耳に1本だけ、ピョロローンとした衣替えの残り毛があるのです。癒されます（笑）みなさんにもぜひ、見ていただきたい写真です。あと、しっぽを傘として背中から頭にかけてしっぽをかけている写真もかわいいですし、子リスが水を飲んだ直後の写真もかわいいです！口元が水で濡れていて、きょとんとした表情。ウルウルの目はかわいすぎます！

ニホンリスが子どもを連れて歩くのは、巣立ち後のほんの短い期間だけなのだそうです。親子連れの子リスを目撃したら、ラッキーなのだとか。子リスの毛は、親リスの夏毛と冬毛とも違う、中間くらいのホワホワした毛になっています。親よりひとまわり小さいので、著者は子リスの見分けがつくそうです。

リスの毛は通常、夏は赤く、冬はふわふわのグレーになります。厳冬期には特に丸くなります。耳も冬は長い毛に覆われ、特別大きくなります。なので、冬と夏では違う表情を見ることが出来ます。著者もだけど、冬のふわふわの方が私は好きかな。

この本で、リスの手のひらに5つの肉球があることがわかりますよ。たつ子のばんざいポーズは、なかなかお目にかかれない貴重な写真です！リスの指もクローズアップされ、今までこんなにじっくり見る機会がなく、鋭い形をしていることに驚きます！でも、木の実を持って食べたり、クルミの割れ目を探してグルグルとまわすときには鋭い指が

活躍するんだなあとなんだか納得できます。リスはクルミの実を地面に埋める貯食行動をするそうですが、埋めたことを忘れてしまう習性があるようで、自然とクルミの木が広がっていくのだそうです。

巣の材料は、杉やヒノキの樹皮を細かく裂いたもののようで、指でさわると、すごくふわふわしていて気持ちいいようです。メスのリスは巣をつくるので定住しますが、オスは定住しにくいそうです。

著者のようにいろんなリスの見分けがつくようになりたいものです。その前に、間近でリスをじっくり見てみたいですね。

みなさんもリスに癒されてみませんか？

